

大山街道の特徴

高津区を約3キロにわたって縦断する大山街道は、江戸城赤坂御門から大山阿夫利神社へと続く大山参拝の信仰の道であり、矢倉沢往還と称されていました。現在の国道246号はほぼこの街道に沿ったルートとなっています。かつての矢倉沢往還は、東海道、甲州街道の脇往還であり、江戸と神奈川を結ぶ物

流の道として栄え、伊豆方面から魚介、茶、真綿、椎茸、秦野のタバコ、多摩丘陵の薪炭等を江戸へ運んでいました。また、文人が集う文化交流の道でもあり、岡本かの子、岡本太郎、濱田庄司の生誕・育成地でありました。1642（寛永19）年創業の亀屋には多くの文人墨客が集っていました。



岡本かの子の生家
(大正7年頃)



溝口中宿商店街（大正8年頃）



嶋屋呉服店（大正頃）

出典：高津郷土史料集・第十五篇 平成5（1993）年3月
矢倉沢往還 二子・溝口宿の街並（その二）

二子宿、溝ノ口宿の特徴

江戸時代、大山街道は主要街道ほど整備されてはいませんでしたが、大衆の道としてにぎわっていました。

二子宿、溝ノ口宿の入口には茶屋があったと思われ、旅人の格好の休憩の場だったことが想像されます。また、車屋、御伝馬請負などの交通関係のものも多く設置されていたようです。

街道に沿っては町家が建ち並び、裏には田畑が広がっていたようです。町家は通りに対して開け放せる戸、広い土間を持っているものが多く、街道の賑わいを形成していました。

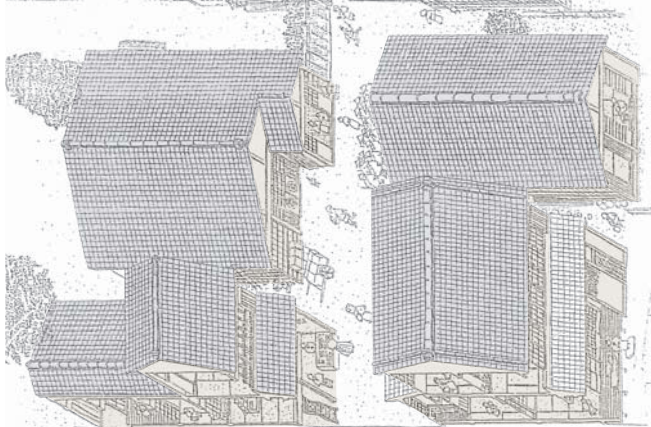
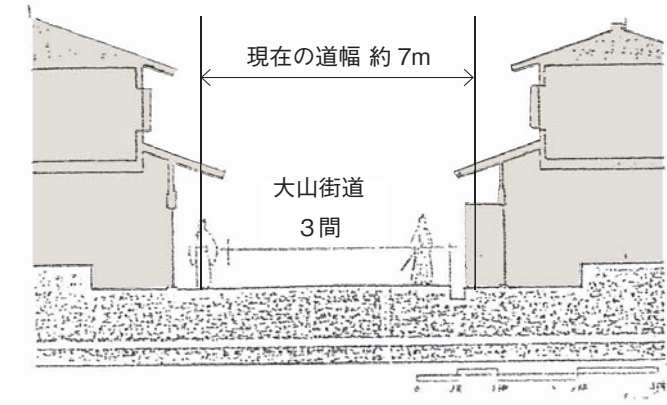
主要街道でなかったため、間口にばらつきはありますが、一応街道に面して短冊型の地割りが連続しており、ある程度計画的に整備されていたことがわかります。

江戸時代の終わりの宿町は二子宿約3.5町（約380m）、溝ノ口宿約3.3町（約360m）、家数はそれぞれ104軒、94軒でした。

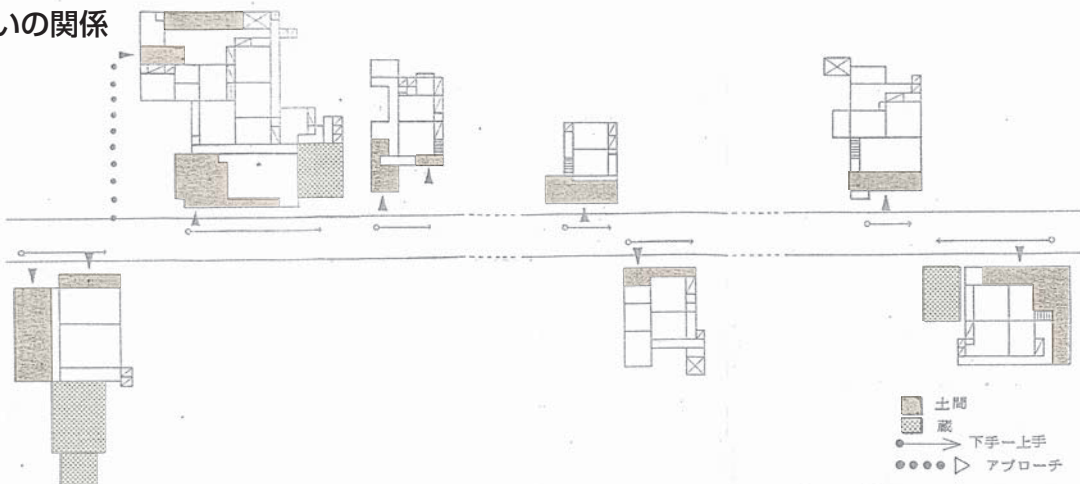
また、道幅は3間位（約5.5m）だったと推測されます。現在の大山街道の幅員は約7mですので、江戸時代は3間の街道の両側に側溝や店先の空間が形成されていた可能性があります。

宿場の形態

宿場名	宿場の形態	宿長 (町)	家数 (戸)	杵形	井戸水場			高札場 位置	高碁 設置数
					廻 井戸	沢水 湧水	上水		
二子		約 3.5	約 104	← →	○	×	○	/	0
溝ノ口		約 3.3	約 94	← →	○	×	○	/	0
備考	= 往還 ▨ 町家 △ 高札場 ○ 田畑 ⊙ 本陣 ㄣ 用水			← 江戸方 × 急坂方 → 京方					

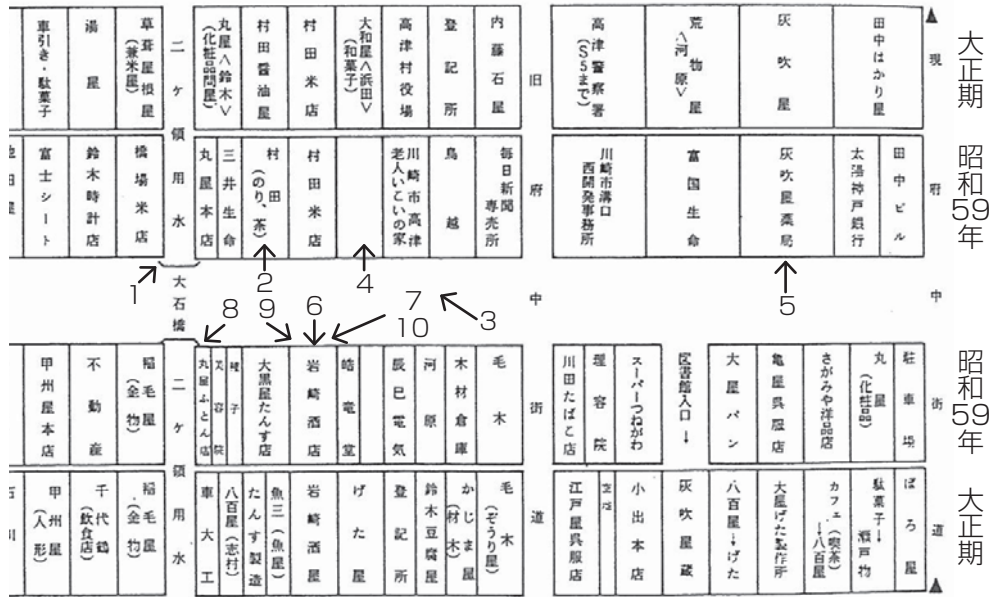


街道とすまいの関係



出典：大山街道／工学院大学建築学科山下研究室(高津図書館寄贈／昭和58年度) ※一部追記

昭和 30 ~ 50 年代に撮影された写真に残る大石橋付近のかつての街なみの面影 ※ () は撮影された年代



出典：川崎市民俗文化財
緊急調査報告書 第三集
二子・溝口 宿場の民俗
(昭和 59 年
川崎市教育委員会)
※一部追記



1. 二ヶ領用水大石橋 (不明)



2. 村田園 (S59)



3. 村田米店 (S57)



4. 大和屋菓子店と旧高津支所



5. 灰吹屋 (S30)



6. 岩崎酒店の蔵 (S57)



9. 岩崎酒店 (S57)



10. 岩崎酒店周辺 (S57)



7. 岩崎酒店の蔵 (S41)



8. 丸屋ふとん店、
大石橋、いなげ屋、
甲州屋 (S41)

出典：川崎市大山街道ふるさと館所蔵

航空写真（昭和 14 年）



昭和 14 年の航空写真では、大山街道沿いに建物が建ち並んでいるものの、周辺には農地が広がっている様子が見て取れます。江戸時代から交通の要所であった大山街道と府中

街道の交差点付近は、航空写真においても最も建物の密集している場所となっていることがわかります。

町家の特徴

大山街道の町家は、街道に面して店蔵があり、そのほとんどが土間を持っていました。店蔵に隣接して袖蔵を持っていたものも多かったようです。

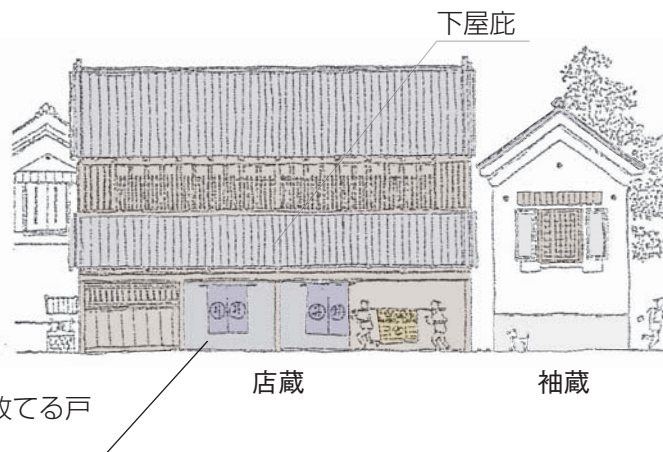
店蔵の屋根は切妻平入で、下屋庇が出ており、2階壁面が1階壁面よりも後退していました。上部にいくにしたがって、街道から後退することにより、街路空間の開放的な環境が守られていました。また、店蔵の開口部(窓)は街道側に設けられており、街路が主たる採光源となっていました。

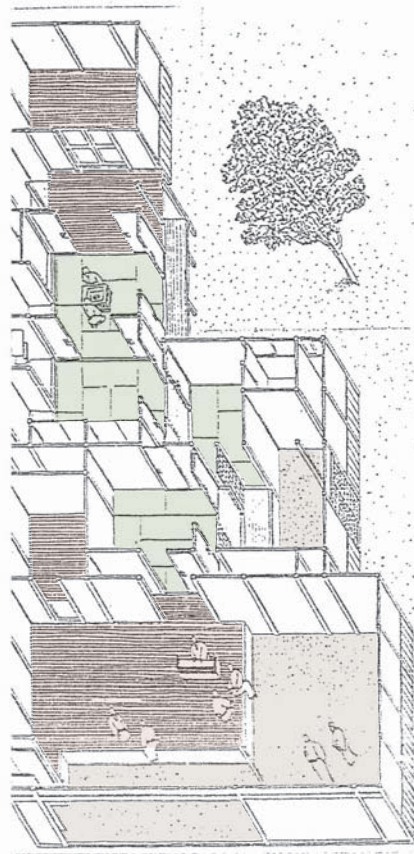
杉崎喜兵氏邸

この家は、増改築していますが、以前は通り土間に店と3つの部屋を持つ整形四間取でした。100年程前に建てられた古い家で、お菓子の問屋、乾物屋、タバコ屋などいろいろやっており、一時は半商半農の時もありました。

屋根は、現存のものは瓦葺きですが、かつては茅葺きもあったようです。

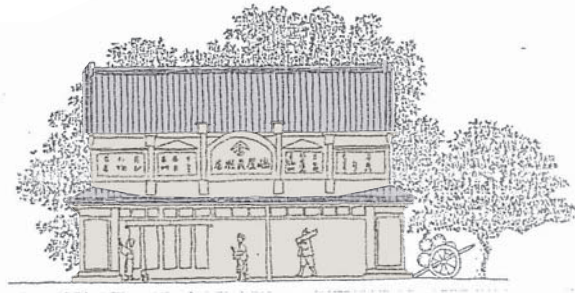
奥は居住部分となっており、貯蔵用の土蔵もあったと思われますが、現存の資料からでは詳しい状況はわかりません。主要街道ではなかったことから、短冊状の奥の部分はあまり長くなく、すぐに農地となっていた可能性もあります。



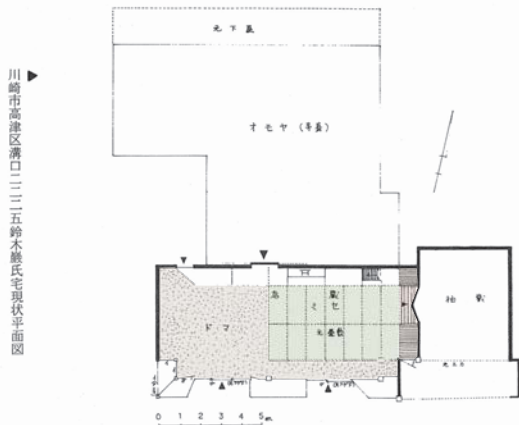


島屋呉服店

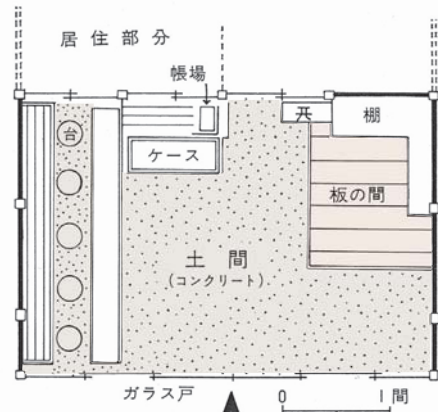
島屋さんは呉服店ということで広い店と土間を持っています。中程にある四畳半の部屋は裁縫室で、いかにも呉服屋さんらしい造りです。また家の中に稲荷が祀っており、他の家には見られない非常に珍しいことです。



出典：大山街道／工学院大学建築学科山下研究室（高津図書館寄贈／昭和58年度）

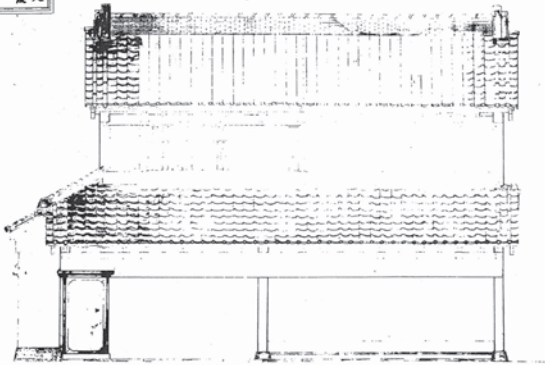


川崎市高津区溝口二三五鈴木麿氏宅現状平面図



岩堀履物店 店部分復元平面図（昭和初期）

建築分冊一頁 尺



鈴木麿氏宅立面図（建築時）



写真は、店の正面看板とガラス以外は昭和初初年のままの姿（その後、取り壊されたため現存していない）。

出典：川崎市民俗文化財緊急調査報告書 第三集
二子・溝口 宿場の民俗
(昭和59年 川崎市教育委員会)

出典：高津郷土史料集・第十四篇
平成4年（1992）3月
矢倉沢往還 二子・溝口宿の街並

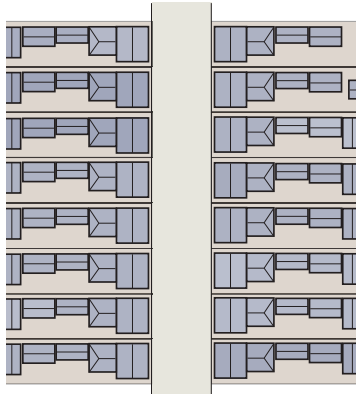
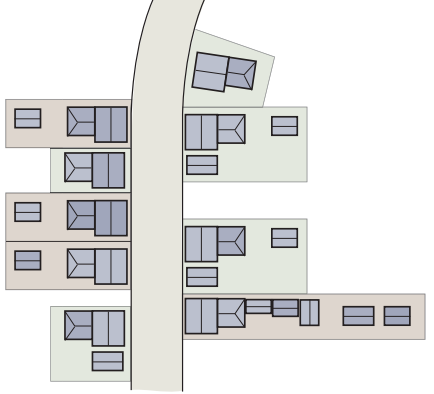
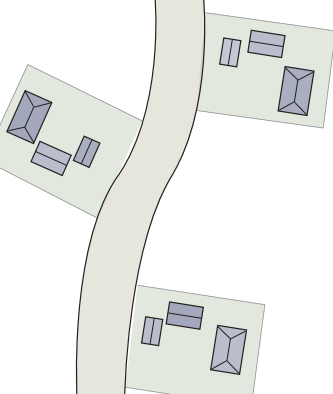
かつての大山街道の街なみの検証のまとめ

かつての大山街道は、短冊型の地割りに町家が並んでいましたが、主要街道ほどは整備されていませんでした。街なみの特徴を模式図(下)で示すと、計画的に整備された京都のような短冊状の街なみと農村集落の中間に位置し、間口がまちまちであったり、裏には田畑が広がっていたこ

とが特徴的といえます。このことから、緑も豊かだったと推測されます。

また、大衆の道として栄えた大山街道の街なみでは、街道に対して開かれた町家も特徴と言えます。土間や街道に対して開け放たれる戸により、人を招く、もてなす空間が多く作られていました。

街なみの模式図

計画的に整備された短冊状の街なみ	高津大山街道の街なみ	農村集落の街なみ
		
<ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐな道 ・統一された間口と奥行 ・一定に密集している ・町家型の建物 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩やかに湾曲する道 ・統一されていない間口と奥行 ・部分的に空地が存在 ・町家型の建物 	<ul style="list-style-type: none"> ・湾曲した道 ・独立した敷地 ・点在している ・農家型の建物



大山街道のかつての街なみのイメージ (想像図)